



発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065 編集 早川清志 題字 島崎洋路

# 『山を知る、身近になる』

## 通年コース第一三回・十四回開催報告『測量・林道設計』

境界はもとより、広さもよくわからない、だいいち自分の家の山がどこにあるのかよく知らないという方はもう山を手放してもらおうしありませんが、位置がわかっ



待ちくたびれちゃったね。早く読んでよ

だったということはあること。地図を作り、等高線

などを入れたりしている中を歩ける道が欲しいなると。地図上でデザインしてきましょう。まずは最初は、どこかへ行くための道ではなく、中をくまなく歩き回れる道です。多少の荷物を持っても苦にならないくらいの勾配で、あまり足元を気にせず歩ける程度幅のある歩道です。

笹や灌木の根が邪魔しましだが、一時間で一人十メートルくらいの歩道はできました。十パーセントの勾配なら息を切らせなくても登っていただけます。こんな歩道が山全体に張り巡らされていればとても入り易い。山が少しづつ身近になってきます。きのこや山菜もすぐに見つけられますし、時に木を見て「ちよっと込んできたな」などと思うようにならばしめたもの、おのずと間伐や枝打ちに手がつくというものです。

高速道路や町の中の道はもうそんなには要りません。大規模な林道も必要ないでしょ

う。ただ、作業をしに行く道見回る歩道 間伐材の搬出の林道はもっともっと増えて欲しいものです。

### 通年コース 第一三回・十四回 測量・林道設計

10月4日(金)・5日(土)

#### 一日目

8時30分 鳥崎先生の山小屋に集合。日程説明。鳥崎先生のあいさつ

8時50分 コンパス測量についての説明

9時30分 4班に分かれて機器の使い方等の説明の後小屋の西側、伊那市々有のヒノキ林の一角にて測量に入る。今日は前進法で反時計回りに閉トラ

#### パース測量

春に十四年度の長野県植樹祭がこのあたりで行われた事もあり、間伐、枝打ちも充分に行われており、中を歩くと気持ちがいい

11時50分 かしましトリオが集まった後藤班を最後に十五点の測量終了。小屋に戻って昼食

1時 説明の後製図開始。斜距離を水平距離に換算し、三分の一の平面図を仕上げる。

一問続きの和室のど真ん中に陣取った川島班。ここは小屋でも一番暗いところ。イントラ以外は少し前に、またはずっと前に不惑を過ぎた塾生のグループなので分度器やスケールの目盛りを読み取るのに苦労する。



そんなに強く抱きしめないで!



こんなところに測点を作ったのはだれだ!



肩もこるし腰も痛い。やっぱり足場の上がいい

3時 三斜法による面積算出と高低差の出し方の説明。



山仕事とどっちが楽しい?これも山仕事か



いま造った道を歩いて帰る、疲れも半減

**4時** 面積は宿題です。各自の図面で計算してください。解散

通年コースで二日続きの開催は今回が最後ということになりました。夕方から、木村さんを幹事に小屋でお食事会、十数名の参加で盛会だったようです。



バカ棒で横断測量。ポールの便利さが身にしみる



オーバー不惑組、またしても不利な状況での製図

**二日目**

**8時30分** 島崎先生の山小屋に集合。日程と林道設計についての説明

**9時30分** 車に分乗して今日の現場、伊那市手良沢山の野底財産区有林に向かう。イントラの後藤さん、川島さんが間伐などを請け負っているカラマツ林です

**12時30分** 作業。またもしんがり、後藤班。もう中村班は大方食べ終えた頃、昼食。昼休みにきのこを探してうろつろした方も何人か。わずかにハナイグチが少々。今年はいまだにこの程度

**1時30分** 測量した路線を歩道として開設する作業

**10時30分** 勾配を10%程度とし(角度5~7度)あらかじめ笹を刈り払ってある斜面を測量する。十メートルおきに横断も測る。事務局がポールを持ってくるのを忘れ各班手製のポールにて測定。これらが終わる次第図に落とす

**4時** 解散

参加者/井上さん、江尻さん、尾形さん、長部さん、梶原さん、北澤さん、鬼頭さん、木村さん、黒岩さん、小泉さん、小山さん、斉藤さん、佐藤さん、下平さん、館野さん、坪内さん、長谷川さん、洲上さん、松田さん、宮沢さん、山下さん、山田さん、和辻

にかかる。灌木や笹の根にてこずり、かなりの重労働です。一時間もして潮時かなと思いましたが中村班と川島班の間50メートルが未開通。「作っちゃおう」という声があがりもうひとがんばり。

**3時10分** ゆうに二百メートルを超える立派な歩道が開通。お疲れ様でした。小屋に戻り

**面積計算の結果**

2班 中村班 面積 3845 m<sup>2</sup> 誤差 0.53%

4班 後藤班 面積 3928 m<sup>2</sup> 誤差 0.28%

1班は2班に準じ、3班は4班に準じてください

パソコンでの計算ですので、誤差には製図の誤差は含まれません。

さん、風見さん、長坂さん  
講師/島崎先生  
スタッフ/石原、川島、後藤  
中村、藤原、平林、坂野  
早川

**次回以降の予定**

**専門コース第三回開催**  
10月17日(木)~19日(土)  
専門コースの最終回です。安全な伐倒の方法、かかり木の処理などを一通り完成させましょう。場所は手良の野底財産区のアカマツ林を予定しています。傾斜は20度ほど。  
8時30分に島崎先生の山小屋に集合。

**集中コース秋の部**  
10月31日(木)~11月2日(土)  
森林調査(測樹、樹木分類)から伐倒、搬出まで森林塾のエキスです。参加される方は『山作り承ります』で予習を是非。

**通年コース第十五回**  
「復習など」11月16日(土)  
「保科先生の山林を見学したい」という方が何人も見えましたので、先生のカラマツ林を二、三ヶ所回って見せていただきます。また、チェンソーをもう少しという方のために数名で伐倒班を編成します。こちらはますみ財産区有林にて。雨天の場合は見学チームに合流しますのであしからず。  
8時30分 島崎先生の山小屋に集合。見学チームは分乗で長谷村へ。

いまま造った道を歩いて帰る、疲れも半減



# リレー通信

二番目の趣味として林業と  
付きあいたい  
松田 清

私は、山登りを趣味として  
おります。山登りと言っても  
佐藤さんの様に特別の技術を使  
って沢登りや、岩登りでは無  
く、市販されている山の地図  
や案内書を片手に一般登山道  
を歩いていきます。山を歩き初  
めてかれこれ三十年になりま  
す。山の楽しみは、いろいろ  
ありますが、なんと行って  
も、頂上へ登ったと言う達成  
感であり、頂上からの景色で  
あり、高山のお花畑の可憐な  
花たちであります。私は、  
意外と登っている時の苦しさを



も好きです。なぜかなあと考  
えたときがあります。苦しけ  
れば苦しいほど、登るとい  
行為に没頭できて頭の中が  
真っ白になるからではないか  
と思っています。

同じ山でも、行くたびに  
違った表情で迎えてくれま  
す。気に入った山は何度も登  
ります。春に夏に秋にと登り  
そしてその山を十分に分る  
ようになってからの冬、雪の  
降り始めの日に、深々と降る  
雪の中を、ゆっくりゆっく

り、誰も歩いていない雪を踏  
みしめながら一人静かに山登  
りをする、降っている雪と  
一緒になって山に溶けこみ山  
の一部になったような気持ち  
になります。その時が最高の  
ときです。

また、私の会社は転勤の有  
る会社です。そのおかげで、  
色々な地方の山に登ることが  
出来ました。最初は槍、穂高  
が代表する北アルプスを七  
月、伊那谷の人にはお馴染み  
の南アルプスを八月、中央を

九月というように毎年  
ルートを変えながら新し  
い頂上を踏んでいまし  
た。丁度大体歩き通した  
ところで東北へ転勤、そ  
してまたまた丁度いいこ  
ろあいに九州へ転勤さら  
に北海道まで行かしても  
らいました。日本の主な  
山の頂上に立たせていた  
だきました。

その中でも思い出に残って  
いるのは、屋久島と北海道の  
山です。屋久島は世界遺産に  
登録されてから登りました。  
縄文杉(登山口から四時間登  
ります)に付いては、大きい  
事は、パンフレットなどで  
知っているつもりだったので  
すが、実際目の当たりにした  
時に感じた何とも言えない威  
圧感やごつごつした木肌の中  
にある暖かさそして全体から  
漂うような尊厳さに、圧倒さ  
れてしまいました。

また、北海道は、でっかい  
ぞを実感してきました。函館  
から山シーズン(五月から十  
月始めの五ヶ月間)の土日曜  
日は毎週片道五百キロ以上走  
り山を歩いてきました。山は  
なだらかな山が多く花の多い  
のが特徴です。花の期間は非  
常に短くなかなか最盛期に見  
ることが難しいだけにまた見  
にきますと山に言い残して下  
山することが多かった気がし  
ます。

私が森林に興味を持ち始め  
た時期は定かではありません  
が、趣味の山登りをすると必  
然的に森林の中を歩くこと  
になります。初めの内は、頂上  
に立つことだけが目的でした  
ので、森の中を歩くことはア  
プローチとしか考えていなく  
て、むしろ伐採跡地の下の町  
が見える場所の方が好きで景  
色を見ながら休息を取りまし  
た。それが段々と森を感じる

ようになりました。好い森  
は、大きな木(多分杉だと思  
います)がゆったりした空間  
にそこそこの本数があり、見  
通しの利くところです。逆に  
あまり好ましく無いと感じる  
ところは、無理して植えた頂  
上近くで、間伐されず、枝打  
ちもされずに光も差さない森  
です。こんな高い所までよく  
植えたものだと感じると同  
時にここまで登って管理する  
のは大変だと手入れの行き届  
かないのを納得してしまいま  
す。

私は山登りの傍ら森林ボラ  
ンティアをしています。大分  
県にいた時たまたま新聞のチ  
ラシを見て応募したのがきっ  
かけです。内容は年一回で、  
六月に草刈、八月間伐(大型  
機械の間伐のデモンストレ  
ーションと手鋸で玉きり)、十  
一月枝打ち、三月植林です。  
林業について殆ど知らなかつ  
た(植林してから五、六年も  
下草刈が必要、枝打ち、間伐  
の本当の意味)私にとって林  
業知識の入口としては、入り  
やすい内容だったと思いま  
す。

しかし、このようなイベン  
トは、主催者が林業や地域の  
広報活動として行う関係から  
レクリエーション的要素を多  
く取入れ、下準備から昼食さ  
らにお土産付きとなり、参加  
者がボランティアをするので  
は無く、主催者が参加者にボ

ランティアをすることになっ  
てしまいます。少し物足りな  
く感じていた時島崎先生の本  
に巡り合い林業の現状を知る  
に付け、もう一段上で活動し  
たいと思うようになりまし  
た。

林業関係の本を読むうちに  
KOA森林塾についても知る  
こととなりましたが、一年間  
伊那谷へ通う自信がありません  
でした。でも、今申込をし  
て良かったと思っています。



# リレー通信

山との関わり 今まで、そしてこれから  
宮沢優人

森林塾で多くの人と巡り合え  
ましたし、また、知識、技術  
も教えていただき、これから  
経験を積み重ねて少しでも役  
立ち、そして私の二番目の趣  
味として林業と付き合ってい  
きたいと思っています。最後  
に、薪ストーブで暖をとりに、  
薪で沸かした風呂に入り、熱  
燗で一杯やることを夢みてい  
ます。もちろん自分で切った  
薪で。

存在ではあったはずだ。と  
ころが入塾までに至らなかつ  
たのは、忙しくて時間がない  
ことを自分の中で理由にして  
いたからだ。それどころか、  
山林所有者でありながらつい  
最近までの私は山に関して無  
関心を装っていた。山を所有  
していることを負担に感じて  
過ごしてきた。山では食って  
いけないことと、それを維持  
管理していくことの労苦や煩  
わしさを考えるとなおさらで  
あった。

身近なものにこそ本当の良  
さがあるのに、なかなかそれ  
に気付かないまま見過ごして  
しまうことがある。私にとっ  
てKOA森林塾がその一つで  
あった。

数年も前から森林塾の存在  
は知っていて、非常に気にな  
ら、外材の輸入拡大と国産材  
の材価低迷の中、林業では  
食っていけない状況となり、



私は林業と無縁の道(情報機器・精密機器製造業)を選んで社会に出た。ここで携わる製品が海外に輸出されるのを見るにつけ、外材がかくも大量に輸入されるのが自分の携わっている産業と全く無縁ではないことを知るようになった。暗澹たる気持ちにかられることもしばしばであった。

そんな自分に転機が訪れたのは、昨年春に実家(伊那市)から車で約四〇分の中川村)に入ったことだった。持山を将来どのようにしていったらいいのだろうか少しは真剣に考えざるを得ない。父は将来なるべく山に手をかけずに済むように心がけた施行を行ってきた。自分が苦労してきた手前、息子にはそれをさせたくなぬという親心が。しかしながら、山を放置しておくわけにはいかないことぐらいは百も承知だった。

この先いかにして山に關わっていったらよいものなのか。ここでふとわが身を振り返ると、山仕事と云って植

林、下刈り、枝打ち、小規模な除間伐程度の経験しかない。それも見よう見真似でやってきたに過ぎない。より広範囲にわたって体系的に学びたいが、身内に教えてもらおうのはどこかで甘えが出てしまいそうだし限度もある。このとき頭に浮かんだのは信州きり講座のことだった。いや待てよ、もっと身近に教えてもらえる場があったはずだ。ここでようやく忘れかけていたKOA森林塾のことを思い出した。通年コースの申込締切まで一ヶ月ほどを残す頃のことだった。定員を越えた場合は抽選になると聞き、祈るような気持ちでその日を待った。その間に鳥崎先生の著書「山造り承ります」を購入して繰り返し読んだ。かくしてようやくKOA森林塾にたどり着いた次第である。

入塾前の自分にとっての仕事は決して楽しいものではなく、単なる義務であり、また時には苦行以外の何物でもないと感じていた。世間の人々が休暇を楽しんでいる暑い盛り、刈り払い機を振り回して行う下刈り作業は肉体的にも精神的にも辛いものであった。

そんな現実から逃避したくて登山に明け暮れていた時期があった。それはふとした

きっかけから始めたものであったが、せつかく信州に住んでいながら登山をしない手はないと思いつて取り組んだ。テントと食料の全てを背負って夏山縦走を主体に、やがて季節を過ぎて積雪期の山にも足を踏み入れるようになった。北海道から屋久島まで各地の山を登ったが、いつしか登山からも足が遠のいていった。山仕事がそれほど苦にならなくなったのに機を同じくしていたかもしれない。そこで味わったものは感動と達成感であり、後に残ったのは体力(特に持久力)に関する程度の自信、痛感したのは体力と健康を維持するための日常管理の大切さだった。これだけでも決して無駄ではなかったと確信している。また、「山」を舞台にして営まれる登山と山仕事、この非なるものの両者を知り得たことは自分にとって大いにプラスであった。

さて、早いもので本年度の通年コースもあと数回を残すのみとなつてしまった。山仕事単なる義務ではなく、山持ちの特権であり、楽しむ権利として認識できるようにしつつある。この意識改革こそがこの五ヶ月あまり森林塾へ通つて得られた最大の成果であった。

しかしながら、ここで教えていただいた山造りのノウハウを今後にどう結び付けるかは大きな課題だ。私の場合、余暇を利用してやっていただけでは手入れ不足は否めない。また、自分でやればお金のかかるものではない反面、お金になるものでもないという現実に向き合つていかなければならない。まあ、この先の人生は考えようによってはまだまだ長い。山仕事に定年はない。林業の凋落を嘆いて何もしていないよりも、「いい時もあつた、これから先にまたいい時が来るかもしれない」という気持ちで、裏山に出かけて枝打ちの一本でもしてこよう。私の山との本当の関わりはまだ始まつたばかりである。

コラム

仕事の日、激しく降つた雨が上がった朝、下屋と呼ばれる屋根のある屋外の作業場を通りかかったら、たくさん鳥の声が聞こえてきました。見ると屋根の骨組みの部分にびっしり、ずらりと並んでとまり、さえずり羽づくろいなどする、つばめ、つばめ、つばめ。

この下屋では毎年つばめがたくさん来て雛を孵すのですが、二回巣立つた後は子育ての時にぎわいがうそのように静かになって淋しい感じがしていました。

渡りをする鳥たちは集まっ

て大きな群をつくつてから発つていくのですが、今がその時なのでしょう。毎年つばめが育つ様子を楽しみに見ていましたが、今年は成長した鳥たちが遠くへ旅立とうとする姿を見られて、なんだかうれしい気持ちと、そして、ちいさなからだで健気だなぁとほろりと切ないような気持ちにもなりました。でも、つばめたちは私のような思いとはまったく無縁に、ただ、今ある生を生きていく。本能のまま生まれ、育ち、巣立ちを迎えて渡りをする。

人間のわたしは、どう生きるか、今この些細な悩みをどうするか、考えてばかりだけれど、本能的直感的に選んで取つた道を突き進むことも時には必要かも、なんて思ったりしました。

イベント案内

川口由一さんの自然農 in 山梨

「耕さず、無農薬、無肥料、草や虫を敵とせず、自然の恵みに則した農・命の世界がここにあります」

10月14日(月)・15日(火)

山梨県長坂町、小淵沢町  
映画「自然農」上映、稲刈りと畑仕事実習、スライド、勉強会など。部分参加可

「ボランティアでつなぐ 森林の回廊(コリドー)」

11月2日(土)〜4日(月)

鋸谷式間伐法の総合的な講習会及び、交流会

開催場所：長野県北安曇郡白馬村スノーハープ近く

講師：福井県農林水産部森林整備課主任 鋸谷茂氏など

ゲスト：鳥崎洋路氏/県指導林家 荒山幸久氏他

担当者：熊崎一也

tel:0268-72-5755  
fax:0268-72-5753

http://www.kkuma.com/  
e-mail:info@kkuma.com

おわりに

自分の山はないが、自分のきのこポイントを持つている。手入れが遅れた人工林には何も生えてこない。あの山もこの山も少し間伐したいなあ。

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。

TEL 0265-70-7065  
FAX 0265-70-7994

E-mail:  
ki-hayakawa@koanet.co.jp  
sh-sakano@koanet.co.jp  
mi-tsuboki@koanet.co.jp  
携帯:0902-53-26375 (開催日)  
H.P.http://www.koanet.co.jp

